

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念を基に、グループホームとしての役割を踏まえた年間目標を掲げている。また、事業所目標の実践に向けた、職員の個人目標を管理者と職員と一緒に考え共有し実践している。	組織的な取り組みとして、理念から個人の目標が具体化されており、個人目標については管理者と一緒に考え実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人内老健施設の敷地内に立地しており、地域住民とのご近所の関係は難しい。そのため、地域の祭りや運動会、文化行事に積極的に出向くことを続けることで、地域との交流を図っている。	地域の行事については、文化祭やお祭り等、積極的に参加することで声がかかるようになった。また法人内の行事にボランティアとして参加して頂き交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成に、メイトを取得した職員を中心に、同法人内の専門職種と協同して地域のサポーター養成講座を開催。また、徘徊事故等検証や、認知症高齢者を支えるための地域の課題に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況の報告以外に、火災避難訓練・学会での研究報告会・他施設への視察研修報告会・感染対策の実演等の、日々の実践報告を同時に行っている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。研修、視察、実践報告等を行っている。出された意見や助言は職員で検討し実践に生かしている。	家族アンケートを運営推進会議で報告し、今後の実践に向けた取り組み等に活用されてはいかがですか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは運営推進会議でホームの問題等の意見交換を行い、グループホームの正しい運営、質を高めていくように努力している。	市の担当者とは事業所の実情を説明したり、市よりアドバイスや意見を頂いたり協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックに気づき、スタッフ間で注意し合う環境作りを行っている。夜間帯の防犯面での施錠以外は、玄関等施錠はせずオープンにしている。	研修会や勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。本人の思いをくみ取り援助している。	スピーチロックについては、ミーティングなどを通して具体的に深めて行くことが求められます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や事業所内での伝達研修で、学びの機会を持っている。また、新聞等の虐待事例に対しては敏感に反応し、事業所の掲示版に掲示し不適切なケアの実態を職員全員で確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の内部研修まで出来ていないが、実践者研修修了者が、その都度説明やカンファレンスで意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居予約、見学時に大まかな説明を行い、入居までをスムーズに出来る工夫を行っている。また、入居時に疑問点を確認し合えるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見を聞く機会は、面会時が多く、要望、苦情は受け止めている。意見箱ではなかなか記入困難であり、投函はなく反映には至っていない。	面会時に意見や希望を聞いている。要望や苦情を受け止めご家族の思いをケアに反映できるように努力している。	家族の意見や要望、苦情等を職員間で共有する記録の工夫が望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、法人の管理者会議を設け、所属長との直接面談や意見を交わし、法人の中でのグループホームの方向性、職員の現状を伝える機会を設けている。また、管理者へのアドバイスも頂いている。	管理者会議で意見や提言を出し合えるように努めている。出された意見や提案は全体ミーティングで検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取るための努力を認め、資格手当として反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は出来るだけ多くの職員が参加できるように計画している。また、法人内での介護研修にも職員を参加させている。力量評価は、業績評価で成果を評価している状況。リーダーを育てることが、今後の課題。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は全国を通して行っている。他県地域の事業所を知ることで、多くの事業所とのネットワークづくりを図っている。また、管理者が日本認知症GH協会の協会役員として参画もしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初、入居者様の「好きなこと」「生きてこられた過程」を知ることで、ケアに繁栄させた取組みを行っている。スタッフ間で情報を共有することのためのカンファレンスを行い、スタッフで考え努力して共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には、初期の段階でもホームに来居して頂き、現在のご様子を直接確認して頂いている。ありのままのご様子を見て頂いた上で、ご家族が何にお困りなのかを探る努力と、信頼関係を築くように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が必要としている支援は何かを考え、説明を行う際には、他のサービスも提案させて頂いている。必要に応じた医療やリハビリテーションの専門的な意見を取り入れながら、方策を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様には、コミュニケーションや想いを通して「したいこと、やりたいこと」を確認し、可能な限り実践、提供できる努力を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は現状等の報告を行い、ご家族と一緒に、次の支援が「何か」を考えるよう努めている。遠方や面会が困難なご家族への支援には、便りを通じて写真で様子をお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常にということではないが、可能な限り、入居者様の馴染んでいた場所や人を確認するようにしている。	利用者の希望を聞きながら馴染みの場所や行ってみたい場所に行けるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然な形で入居者様とスタッフが交流しやすい空間を提供出来るよう心掛けています。生活を共にしている入居者様同士の関係構築にどのような支援が必要かを随時チームで考えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、別の施設へ転居された入居者様がどのような生活を営んでいるかを「確認」することは、現段階では事例がない。ただ、同法人内での入院や入所に関しては出向くよう事業所として取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の「これまで歩んだ歴史」を踏まえた上で、ご家族の力や他入居者様の力を借りながら、少しでも「その人」本位になるよう、努力している。	家族からの情報や日頃の活動の中から、利用者の思いや意向を把握するように努め、利用者の意向を汲みとりながら本人の意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人やご家族、住んでいた家や場所を基本情報から整理し、提供する介護の「根拠」を見出すよう、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らす方の生活を「知ろうとする」ことによって、一方的な介護にならず、自立支援を踏まえた見守りが行える環境を目指している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で表出した表情や言葉から、入居者様ご本人が必要としている援助をアセスメントから「予見」し、検討を行っている。	3ヶ月毎にプランの見直しをしている。担当制にしており日頃の活動の中から利用者の意向や心身状況の変化を把握し、職員で意見交換しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録できているが、ケアの気づきや工夫等に関する記録はまだまだ少ない現状。情報の区別は人それぞれであることから、様々な方法を通して実践が提案できるよう心掛けたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々合わせたサービスを提供するように努力している。フォーマルサービスに偏らない、インフォーマルなサービスの発掘に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	比較的資源は豊富な地域と考えている。暮らす方々の状況に応じて、職員が新たな地域資源を掘り起こすことによって、入居者様にあった資源開発が可能と考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、24時間体制での入居者様の身体変化に母体病院側にサポートしてもらっている。薬のコントロールや身体変化の報告は、1回/週の往診時に相談している。	かかりつけ医は本人、家族の希望を大切にしている。かかりつけ医と連携を図り利用者の身体状況に応じて24時間体制で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様との関わりの中で、身体的な変化がある場合、速やかに看護職へ報告し、助言をもらいながら連携を行っている。入居者様の些細な気づきを増やし、予見し、適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症サポーター養成に、メイトを取得した職員を中心に、同法人内の専門職種と協同して地域のサポーター養成講座を開催。また、徘徊事故等検証や、認知症高齢者を支えるための地域の課題に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、入居者様の「最期」をご家族とも一緒に考えられるよう努めている。地域の方々には、運営推進委員の方々を中心に理解が得られるよう努力している。	日常の健康管理や緊急時の対応について話し合いを持ち、事業所が対応できる最大のケアについて説明している。利用者と家族にとって一番良い方法を医師の意見を取り入れながら支援している。研修には毎年参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段の現場や、研修時にどのように緊急時に対応するかを内部研修等も含め、意識していくことで、実践に活かすよう心がけている。急変や事故発生に至らない介護の在り方を模索している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に対する訓練は積極的に実施している。今後の課題は、自然災害を想定した訓練を実施し、避難場所の確認や、危険箇所についての情報を地元の方から得られるような働きかけを行っている。	避難訓練は定期的実施している。今後も自然災害を想定した訓練の計画や地域住民にも協力の働きかけ等、積極的に防災に取り組んでいる。食料品の備蓄は誰でも見える場所に保管している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの生活観を把握するように努め、その生活に合わせた声のかけ方、働きかけを意識している。	職員は利用者の尊厳を大事に細かな気配りの対応、支援ができる様に努力している。人格の尊重とプライバシーの確保がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が出来ることをカンファレンスやアセスメントを通して知り、理解し、職員本位のケアにならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても業務優先に陥りやすく、安全を優先させてしまうのも現状としてある。入居者様の力も借りつつ、時間が少しでも入居者様のペースになるよう、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや髭剃り、お化粧、身だしなみは、ご家族が何時見えても不快の無いように注意している。洋服に関しては、ついついこちら側で選んで着ていただくことが多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実際に調理に関わる場面は少ない環境だが、食事の盛り付けや後片付けやテーブル拭きなどの家事援助を得意とする入居者様は、いつも活躍して頂いている。	日常動作の継続に結び付けられるように職員と食事の盛り付け、後片付け、またおやつ作りなど、食事を楽しむことができる様支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行事食限定ではあるが、食べたい料理を、入居者様が決めることもある。栄養バランスは、食事委託先の管理栄養士が管理。水分摂取の大事さを常に意識し、飲水量は常に注意してる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに対しては、誤嚥性肺炎の危険もあることから、毎食後必ず行っている。入居者様の身体状況に合わせ、定期的に歯科衛生士からも助言を受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表への記入から、昼夜の排泄間隔、パターンを知り、「トイレ」という言葉が入居者様を外して飛び交わないよう心がけている。排泄用品の使用量を検討し、費用をどのように考えていくか検討もしている。	利用者一人一人の排泄パターンを全職員が把握し誘導を行い排泄の失敗を減らすよう支援している。また排泄用品の使用量を検討し、費用の削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分と適度な運動が必要という意識はあるが、動きの少ない日もある。麦ご飯や乳製品の摂取による、薬に頼らないケアの工夫を考えるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化した入居者様でも、入浴方法を検討しながら、入浴が、その人にとっての「快」として提供できる工夫を常に検討している。	入浴方法について利用者個人個人のマニュアルを作成し、統一した支援や介助ができる様に工夫している。一人一人の身体状況や希望により気持ちよく入浴できるように声掛けにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが崩れてしまわないよう、しかし適度な休息も必要と捉え、入居者様に合う時間を考えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をカルテにまとめて各スタッフが確認できるようにしている。また、服薬の変更がある際は、スタッフ間で周知を行い、服薬についてはその後の報告も行い、過剰な服薬にならないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が自ら見出せる環境支援を常に考え、入居者様の力を活用しながら、スタッフだけの一方的な支援にならないよう努力している。馴染みの関係を活かした楽しみを模索していくことがこれからの課題。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居によって、社会とのつながりが途切れてしまわないよう、入居者様の生活歴から、馴染みのある場所や人に会いに行く努力を行っている。受診も外出の一つだが、受診のみに終わるのではなく、その時に希望等を聞き、実行できる工夫を行っている。	本人の意向に沿って柔軟な対応をしている。日常的な散歩やその日の状況を見て外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が入居者様自身で難しく、簡単な買い物については、支払いを入居者様において、その他では事業所管理となっている現状がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を自らかけるという行為は見られないが、ご家族と話がしたいという気持ちは大事にし、ご家族にもご協力を頂いている。手紙のやり取りは、記念日には一言添えていただけるよう、声をかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に共有空間は、「洋」の感覚で空間が作られている。入居者様の動きに合わせて、その時々によってテーブルへの誘導や畳の間への誘導を検討している。また、季節感を味わってもらえる工夫をしている。	共用空間は居心地が良く気兼ねなく集えるように配慮している。季節の花や飾り付け、行事の写真の掲示し、季節感、生活感を味わえる様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルには、話が合う、出来る方同士、独りがよい方が過ごしやすいよう絶えず検討している。共有の空間をあまり好まず、自ら居室を選択する入居者様もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者様が使用していた物や、使い慣れた物を、入居者様やご家族に尋ねてみたり、持ってきて頂いたり、写真を居室に飾ったりと、その場所が自分の空間であるという認識がしやすい工夫を行っている。	使慣れた物や好みの物を使用している。生活しやすいように家具やベッドを配置し、居心地の良い住環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所が分かるように、入居者様に馴染みのある目印をつけたりと、出来る事、分かる事を生かした環境づくりに努めている。		